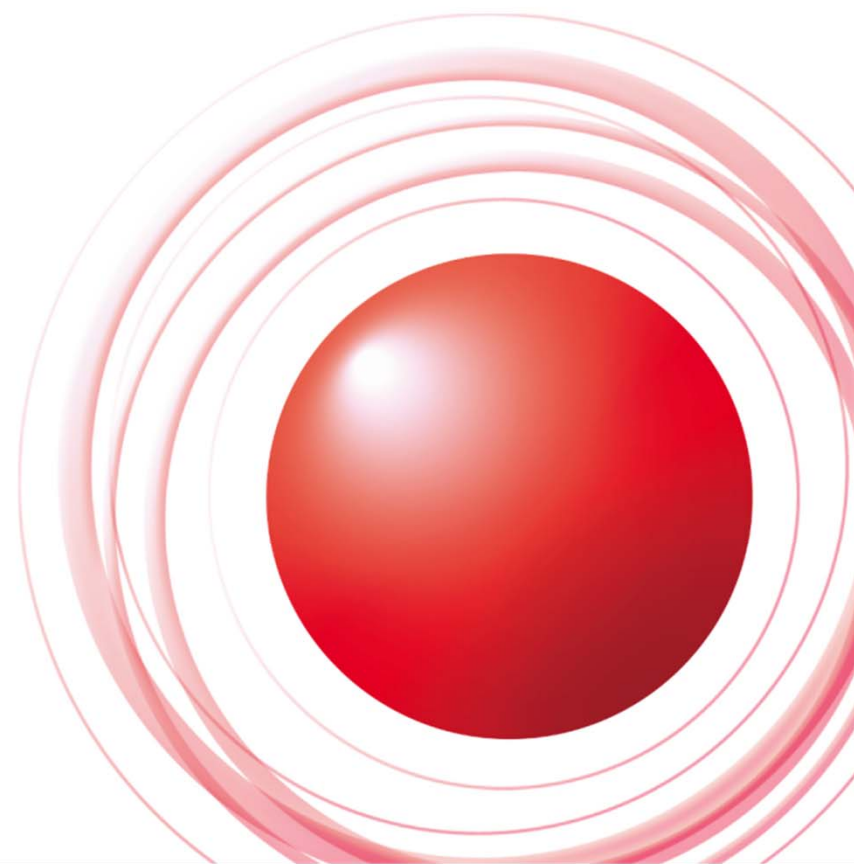


2015年3月期 第1四半期 連結業績説明会



株式会社インターネットイニシアティブ（証券コード:3774）
2014年8月8日（金）

Ongoing Innovation



アジェンダ

I . 2015年3月期 第1四半期 総括

II . 2015年3月期 第1四半期 連結業績

III . ご参考資料

I. 2015年3月期 第1四半期 総括

	＜ 2015年3月期 第1四半期 連結実績 ＞	＜ 2015年3月期 上半期 見通し ＞
・営業収益(売上高)	275.5億円 (前期比 4.2%増)	575億円 (前期比 5.7%増)
・売上総利益	50.0億円 (前期比 0.6%減)	
・営業利益	7.7億円 (前期比 41.2%減)	28億円 (前期比 6.9%減)
・税引前四半期純利益	8.3億円 (前期比 42.2%減)	27億円 (前期比 19.3%減)
・当社株主に帰属する四半期純利益	4.9億円 (前期比 48.5%減)	17.5億円 (前期比 20.6%減)

FY14 事業進展

中長期事業拡大を展望した事業開発推進、プロジェクトとして順次具体化

- ◆ 売上基盤拡充のためのサービス・ソリューション開発の強化、リソース投下
 - ビッグデータソリューション・基盤、M2Mプラットフォーム、SAP on GIO、マルチクラウド、SDN/NFVソリューション etc.
 - 日本マイクロソフトとAzure閉域網接続サービスで提携、SAPジャパンとの戦略協業推進 etc.
- ◆ MVNO事業大幅拡大中、成長分野として引き続き注力
 - 個人向け：音声・MNP対応、SIMロックフリー廉価端末提供、販路拡充にて販売ペースアップ
 - 法人向け：M2M案件需要の継続拡大、BtoC向けMVNOニーズ増加によるMVNEビジネス拡大を展望
- ◆ クラウド・SI複合の大型案件プロスペクトが順次積み上がり
 - メガバンク大規模セキュリティ制御システム、大手流通向け大規模業務基幹システム、公共新サービスの提供基盤 etc.
- ◆ 国際事業にて潜在大口案件浮上、事業機会を創出中
 - ロシア・ラオスでコンテナDC (co-IZmo/I) 構築の引き合い 初期契約締結・経産省よりFS予算確定
 - アジア各地よりクラウドインフラ構築の技術支援要請有り、システム構築・運用へ

1Q14 業績推移

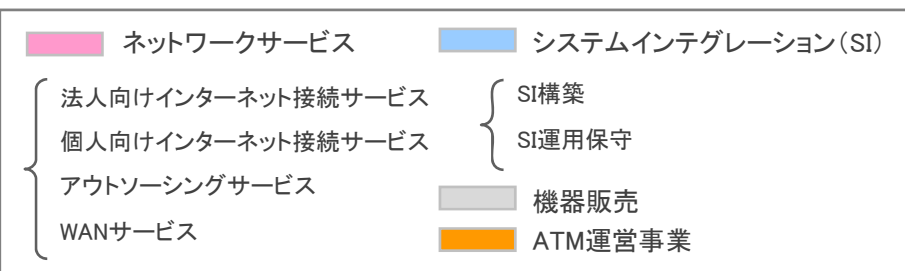
- ◆ 売上はほぼ想定通り、営業費用も想定通りに期替りにて増加
- ◆ 前期末案件への外注工数が一時的にかさみ、SI粗利は想定より若干低水準
- ◆ 本社移転関連費用 上期想定約5億円の内 約1.6億円 計上

Ⅱ-1. 2015年3月期 第1四半期 連結実績サマリー

単位: 億円

	売上高比		前年同期比 増減	売上高比	
	1Q14 (14/4~14/6)	1Q13 (13/4~13/6)		FY14見通し (14/4~15/3)	前年比 増減
営業収益 (売上高)	275.5	264.4	+4.2%	1,230.0	+7.6%
売上原価	81.9% 225.5	81.0% 214.1	+5.3%	—	—
売上総利益	18.1% 50.0	19.0% 50.3	△0.6%	—	—
販売管理費等	15.4% 42.3	14.1% 37.2	+13.6%	—	—
営業利益	2.8% 7.7	4.9% 13.1	△41.2%	5.9% 72.0	+25.8%
税引前 四半期純利益	3.0% 8.3	5.4% 14.3	△42.2%	5.7% 70.0	+11.6%
当社株主に帰属する 四半期純利益	1.8% 4.9	3.6% 9.5	△48.5%	3.7% 45.0	+1.3%

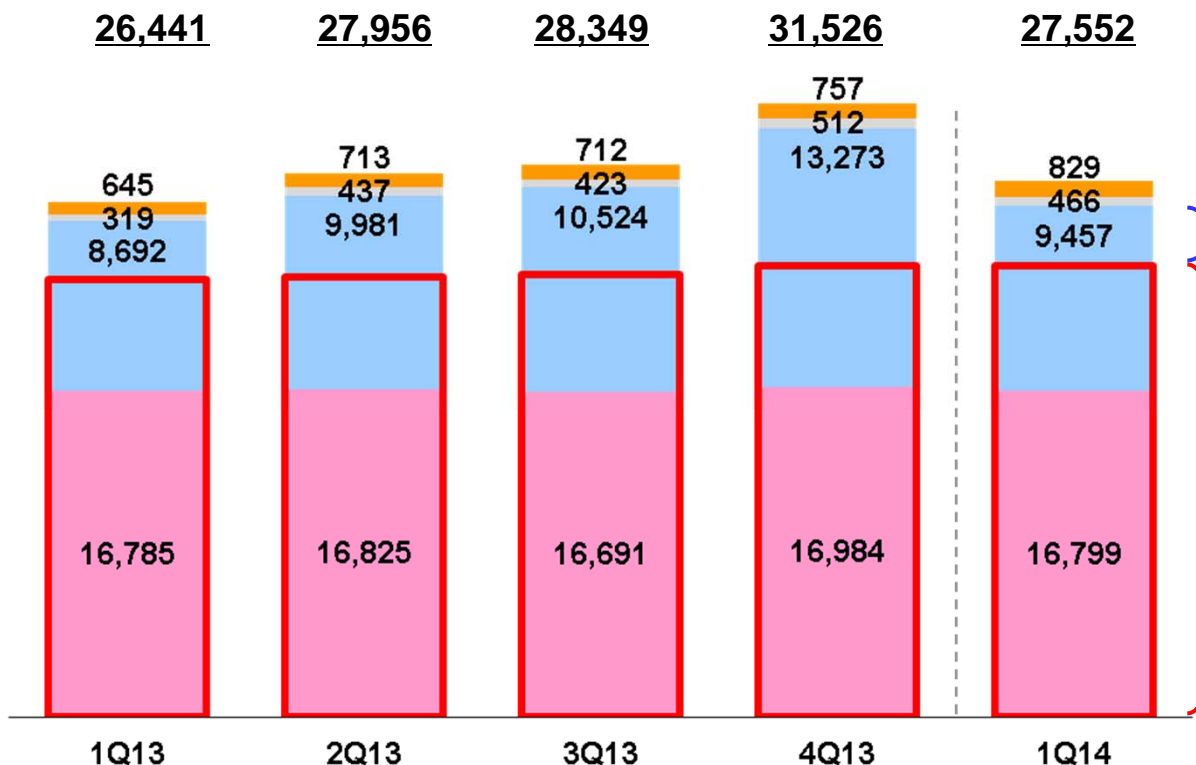
Ⅱ-2. 営業収益(売上高)の推移



単位: 百万円

YoY=前年同期比

FY13: 114,272



一時売上* (売上構成比: 12.9%)

1Q14: 3,551百万円 (+8.2%YoY)

* 検収時(システムが完成し引き渡すタイミング)に一括計上される売上

- ①SI構築
- ②機器販売

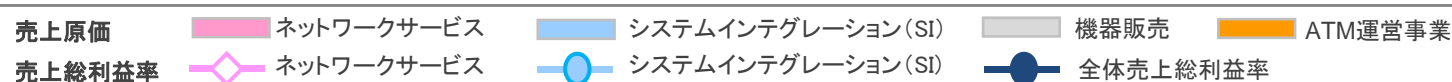
ストック売上* (売上構成比: 84.1%)

1Q14: 23,172百万円 (+2.9%YoY)

* 継続提供にて月次計上される恒常的売上

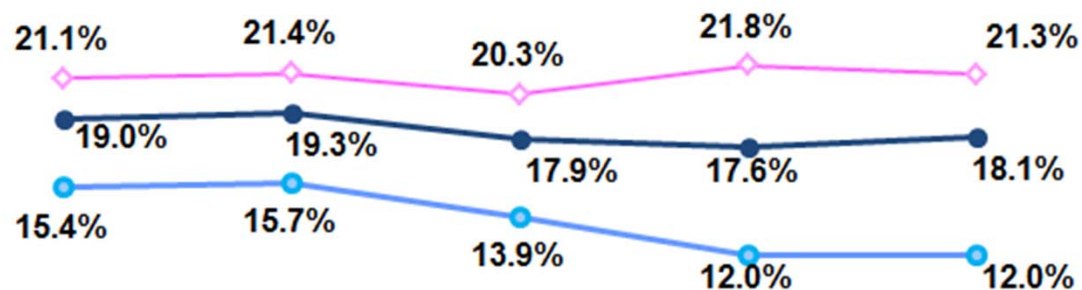
- ①インターネット接続サービス(法人・個人)
- ②アウトソーシングサービス
- ③WANサービス
- ④SI運用保守

Ⅱ-3. 売上原価・売上総利益率の推移



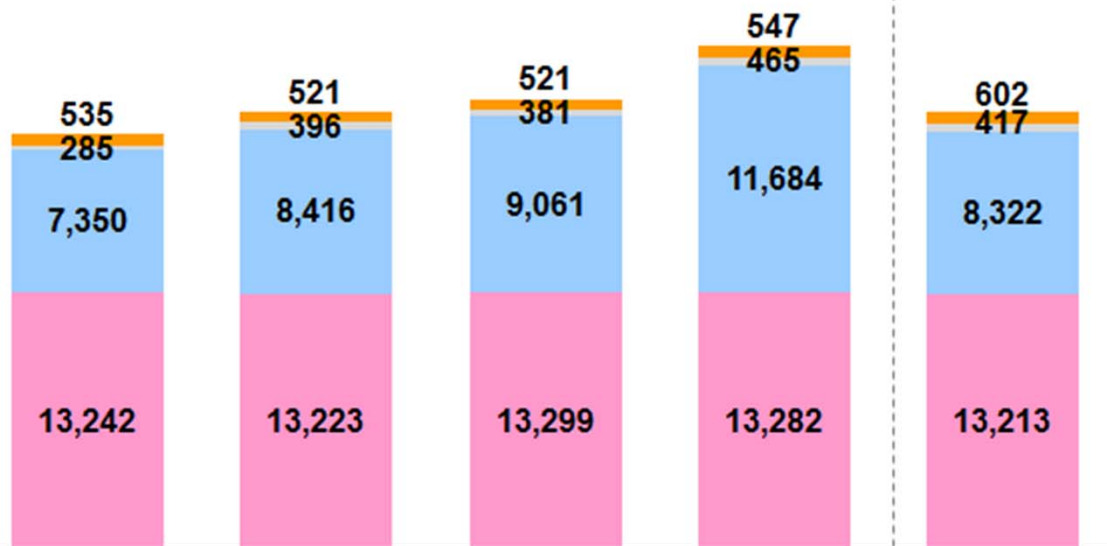
単位: 百万円

YoY=前年同期比



FY13: 93,206

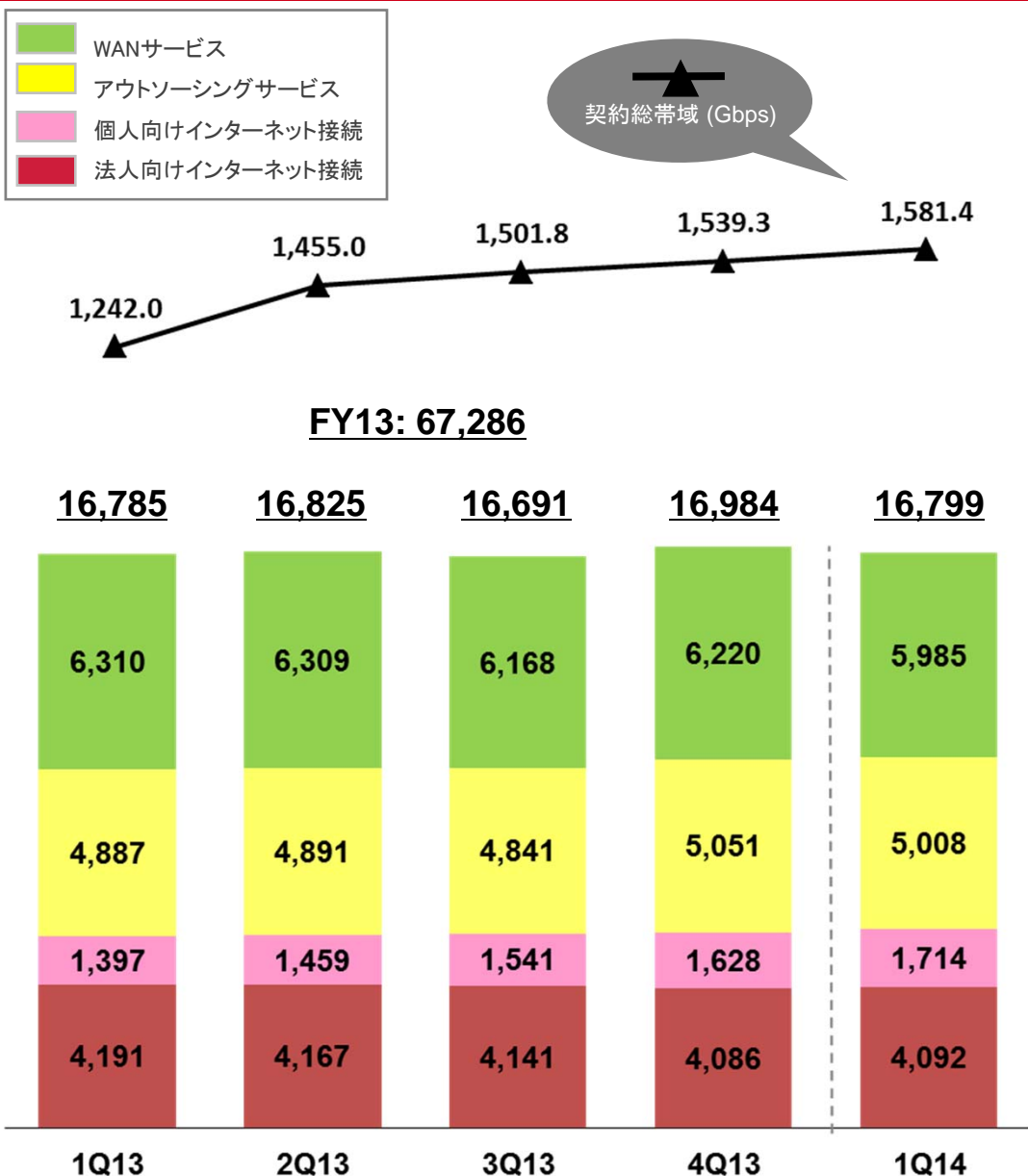
21,411 22,556 23,262 25,977 22,554



1Q14 売上総利益

- ◆ 全体
 - 売上総利益: 4,998百万円 (△33百万円・△0.6%YoY)
 - 売上総利益率: △0.9ポイントYoY
- ◆ ネットワークサービス
 - 売上総利益: 3,586百万円 (+42百万円・+1.2%YoY)
 - 売上総利益率: +0.2ポイントYoY
- ◆ SI
 - 売上総利益: 1,136百万円 (△207百万円・△15.4%YoY)
 - 売上総利益率: △3.4ポイントYoY
- ◆ ATM運営事業
 - 売上総利益: 227百万円 (+117百万円・+107.1%YoY)
 - 売上総利益率: 27.4%(+10.4ポイントYoY)

Ⅱ-4. ネットワークサービス ① 売上高の推移



単位: 百万円

YoY=前年同期比

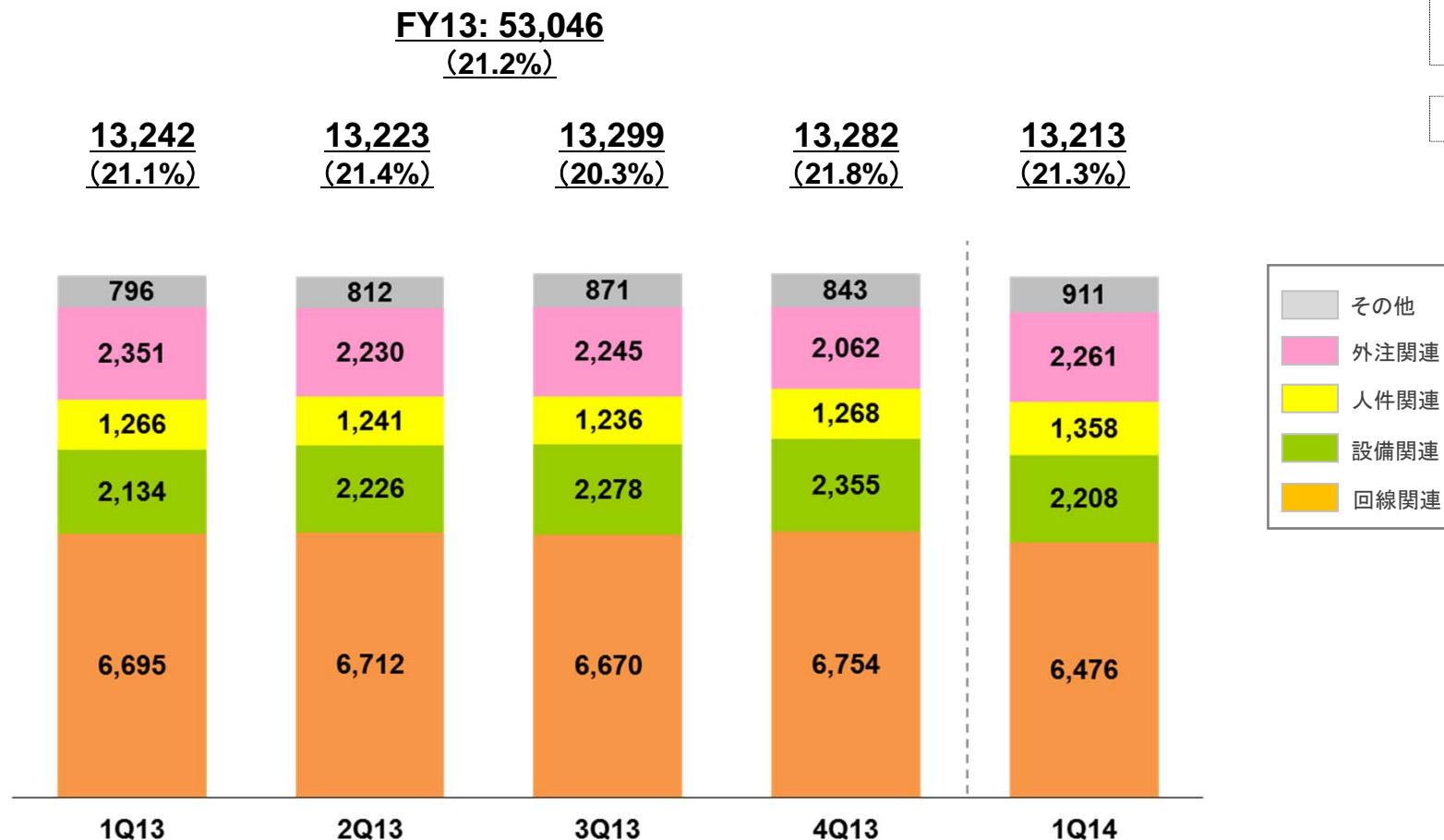
- ◆ 1Q14 法人向けインターネット接続:
 - Δ99百万円・Δ2.4%YoY
 - ・モバイルサービス売上継続増加
 - ・IPサービス前期売上減影響
 - ・1Q14末Gbps超契約件数: 284件 (1Q13末 235件、4Q13末 271件)
 - ・期替わり時の売上減要因有り
- ◆ 1Q14 個人向けインターネット接続:
 - +316百万円・+22.7%YoY
 - ・IIJmio/LTEサービスの継続積上げ
 - ✓1Q14末回線数: 約20.5万回線 (1Q13末 9.3万回線、4Q13末 16.9万回線)
 - ✓1Q14 売上: 6.9億円 (FY13: 17.0億円、1Q13: 3.0億円)
- ◆ 1Q14 アウトソーシングサービス:
 - +121百万円・+2.5%YoY
 - ・IIJ/GIOホスティング伸張
 - ・期替わり時の売上減要因有り
- ◆ 1Q14 WANサービス:
 - Δ325百万円・Δ5.1%YoY
 - ・期替わり時の売上減要因有り

Ⅱ-4. ネットワークサービス ② 原価の推移

単位: 百万円

YoY=前年同期比
QoQ=前四半期比

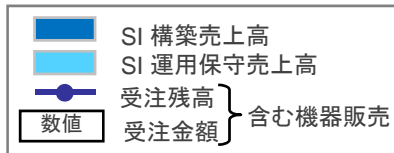
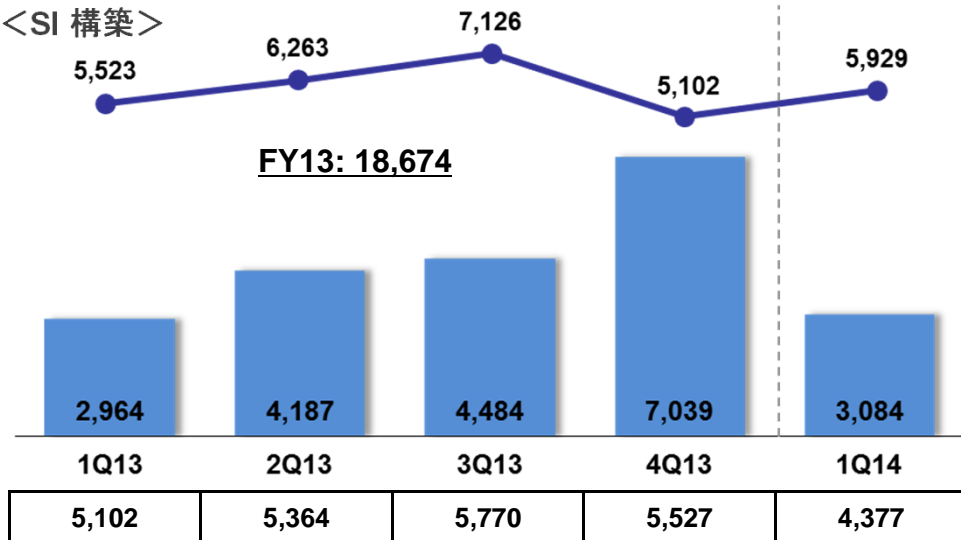
() 売上総利益率



- ◆ 1Q14ネットワークサービス原価: △28百万円・△0.2%YoY、△69百万円・△0.5%QoQ
 - WANサービス売上減に伴う回線関連費用減少
 - 人員増、定期昇給等により人件関連費用の水準増加

Ⅱ-5. システムインテグレーション(SI) ① 売上高・受注等の推移

<SI 構築>



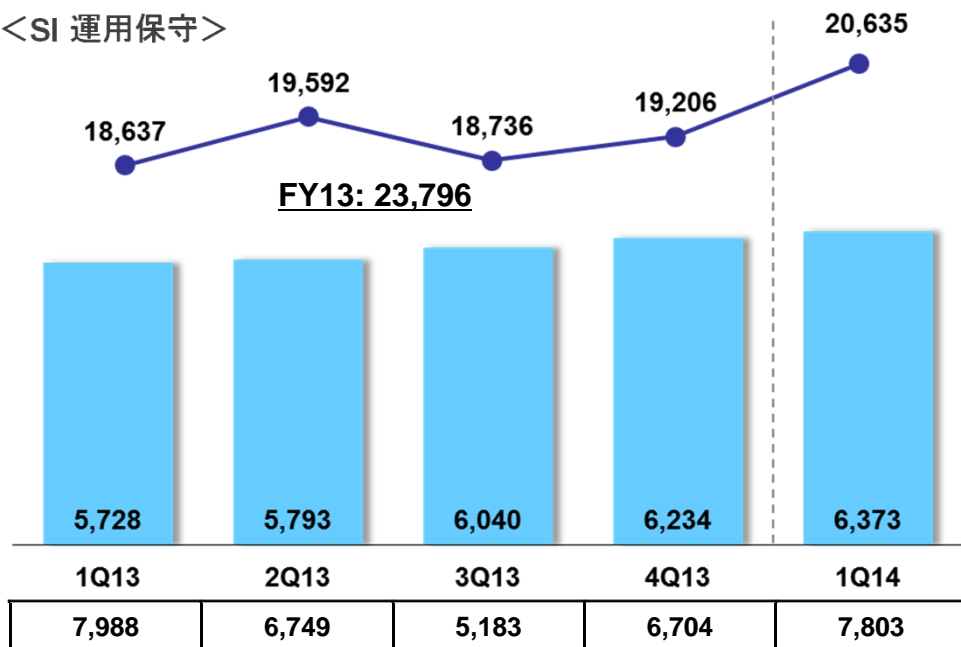
単位: 百万円

YoY=前年同期比

1Q14 SI 構築等の状況

- ◆ 売上: +120百万円・+4.1%YoY
- ◆ 1Q14末受注残高: +406百万円・+7.4%YoY
- 案件数・規模が継続拡大
 - ・ サービス事業者向け大規模基幹システム開発・構築
 - ・ 損害調査会社の事故調査員向け事故システム基盤更改
 - ・ 金融機関向けOA一式のクラウド構築・提供
 - ・ 某大手製造メーカー 大規模BtoB情報発信サイト構築等々

<SI 運用保守>



1Q14 SI 運用保守の状況

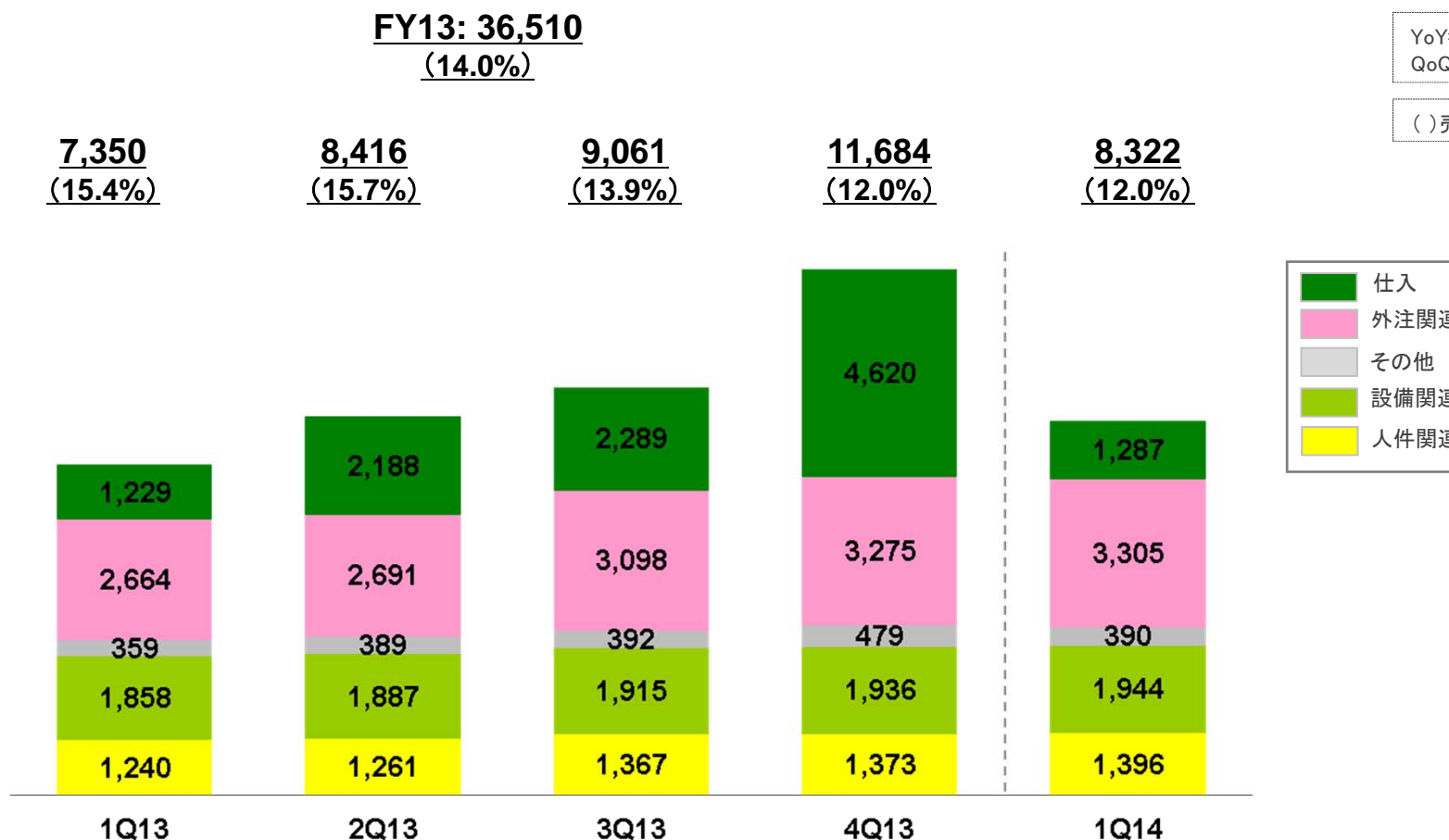
- ◆ 売上: +645百万円・+11.3%YoY
- ◆ 1Q14末受注残高: +1,999百万円・+10.7%YoY
- 1Q14クラウド売上全体の約80%がSI運用保守に計上（約20%はアウトソーシングに計上）

Ⅱ-5. システムインテグレーション(SI) ② 原価の推移

単位: 百万円

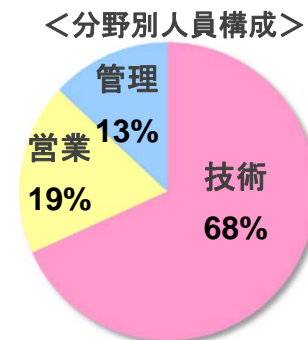
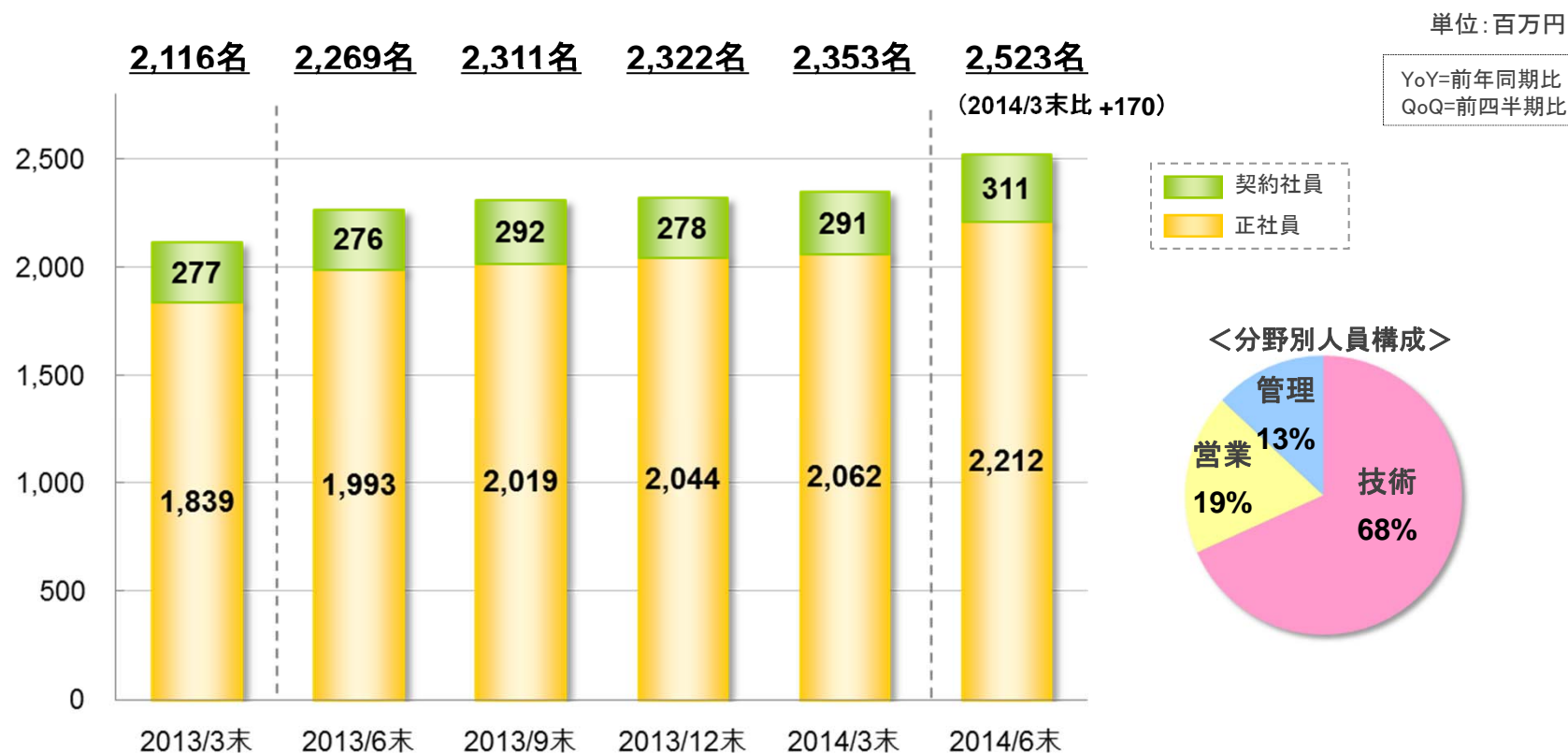
YoY=前年同期比
QoQ=前四半期比

() 売上総利益率



- ◆ 1Q14 SI原価: +972百万円・+13.2%YoY
 - 1Q14末外注人員数:810名(+97名YoY、+27名QoQ)、外注関連費用増
 - 4Q13検収案件の手戻り工数等で、想定よりも粗利伸び悩み
 - ビックデータ、クラウド等ソリューション開発に人員・外注工数投下(費用計上)

Ⅱ-6. 連結従業員数の推移



人件関連費用総額
(売上高比率)

	4Q12	1Q13	2Q13	3Q13	4Q13	1Q14
総額	3,979	4,212	4,254	4,317	4,408	4,641
(売上高比率)	(13.5%)	(15.9%)	(15.2%)	(15.2%)	(14.0%)	(16.8%)

単位: 百万円

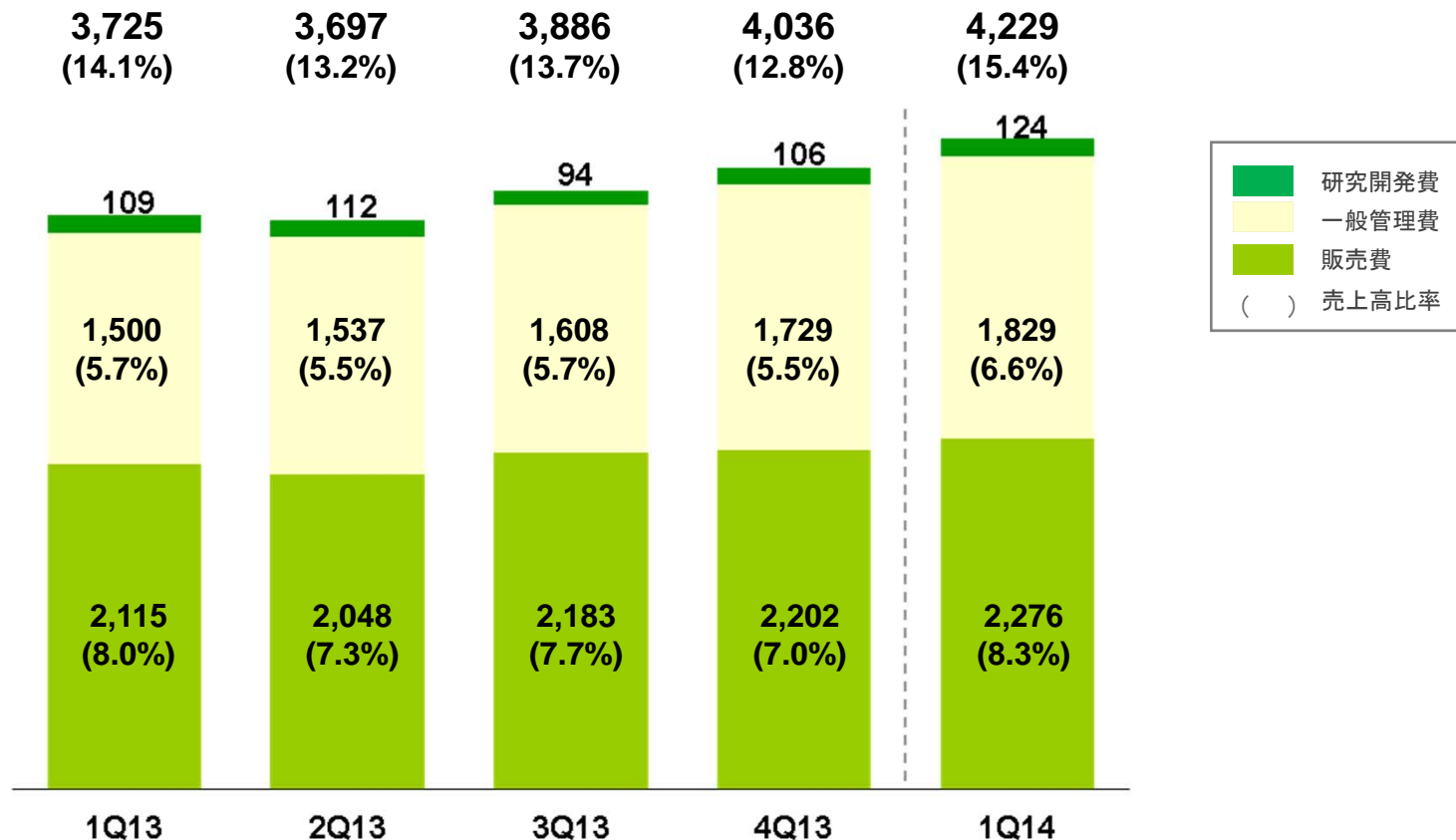
- ◆ 1Q14 総人件関連費用: +4.3億円 YoY、+2.3億円 QoQ
- ◆ 2014年4月入社新卒社員数: 129名 (2013年4月: 136名、2012年4月: 75名)
- ◆ FY14もFY13(前期比+237名、+17.1億円増との実績)と同規模超採用の予定

Ⅱ-7. 販売管理費・研究開発費(SG&A)の推移

FY13: 15,343
(13.4%)

単位: 百万円

YoY=前年同期比
QoQ=前四半期比



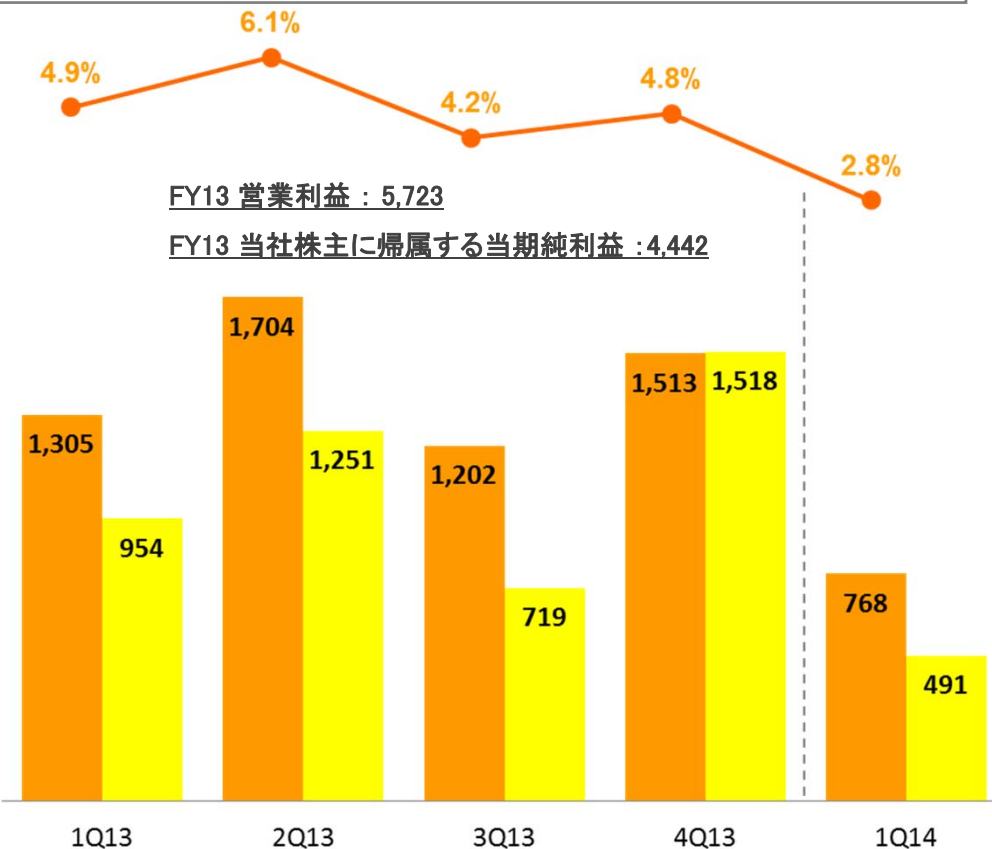
- ◆ 1Q14 販売管理費: +505百万円YoY、+193百万円QoQ
 - 人件関連費用、外注人件費、地代家賃、支払手数料(中途紹介料等)、減価償却・除去等が増加
- ◆ 本社移転関連費用(二重家賃、移転費、減価償却、除却等)約1.6億円を1Q14に計上。合計約5億円程の見込みで2Qも計上

Ⅱ-8. 営業利益・当期純利益の推移

■ 営業利益
 ■ 当社株主に帰属する四半期純利益
 ● 営業利益率

単位: 百万円

YoY=前年同期比



◆ ATM運営事業セグメント利益

単位: 百万円

1Q13	2Q13	3Q13	4Q13	1Q14
81	160	159	178	189

- 2014年8月8日 現在 設置済ATM台数 915台
1Q14より東海地域展開開始
- FY14は300台超設置を展望

◆ 1Q14 税引前四半期純利益: 827百万円
(△603百万円・△42.2% YoY)

- その他投資関連の利益: 82百万円
- 支払利息: 61百万円
- 為替差損: 15百万円

◆ 1Q14 当社株主に帰属する四半期純利益: 491百万円
(△463百万円・△48.5% YoY)

- インターネットマルチフィード及びi-revo等に係る
持分法投資利益 : 34百万円
- トラストネットワークスに係る非支配持分利益: 18百万円

269	804	378	1,044	220	法人税・住民税・事業税等
268	△99	221	△1,090	132	法人税等調整額※
65	61	64	13	34	持分法投資損益
△5	△22	△24	△191	△18	控除- 非支配持分に帰属する 四半期純利益

※ 法人税等調整額の△は
法人税・住民税・事業税等のマイナス

Ⅱ-9. 連結バランスシート(サマリー)の状況

	2014年3月末	2014年6月末	前期末比増減
現金及び現金同等物	22,421	20,421	△ 2,000
売掛金	19,214	17,295	△ 1,919
たな卸資産・前払費用(短期・長期)	7,432	9,101	+1,670
持分法適用関連会社に対する投資	2,086	2,170	+84
その他投資	6,356	5,676	△ 680
有形固定資産	26,971	26,940	△ 31
のれん・その他無形固定資産	10,309	10,210	△ 99
敷金保証金(流動・非流動)	2,727	4,253	+1,526
資産合計	103,867	101,703	△ 2,164
買掛金・未払金	12,542	10,719	△ 1,823
未払法人税等	1,079	166	△ 914
銀行借入金(短期・長期)	10,380	10,380	-
リース債務(短期・長期)	8,356	8,043	△ 314
負債合計	43,686	42,041	△ 1,645
資本金	25,497	25,500	+3
資本剰余金	35,962	35,974	+12
欠損金	△ 2,868	△ 2,882	△ 14
その他の包括利益累計額	1,713	1,176	△ 537
当社株主に帰属する資本合計	59,912	59,375	△ 537

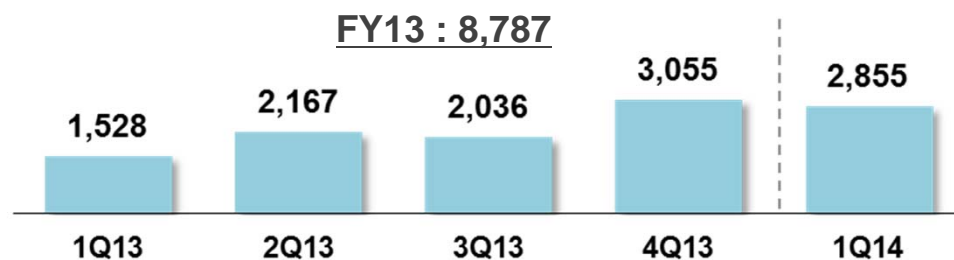
単位:百万円

▶ 当社株主に帰属する資本比率(株主資本比率): 2014年3月末 57.7%、2014年6月末 58.4%

Ⅱ-10. 連結キャッシュ・フローの状況

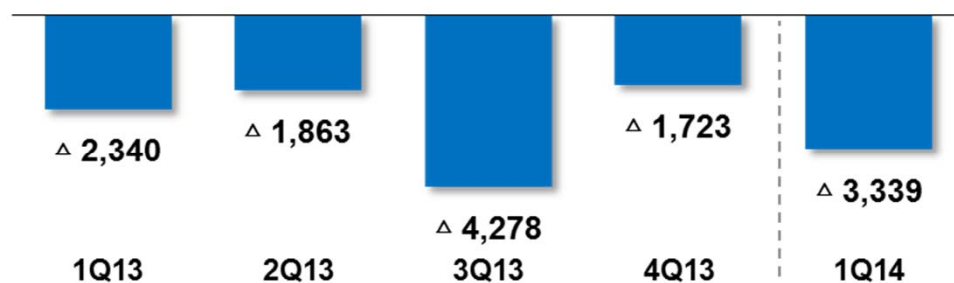
営業キャッシュ・フロー

単位: 百万円



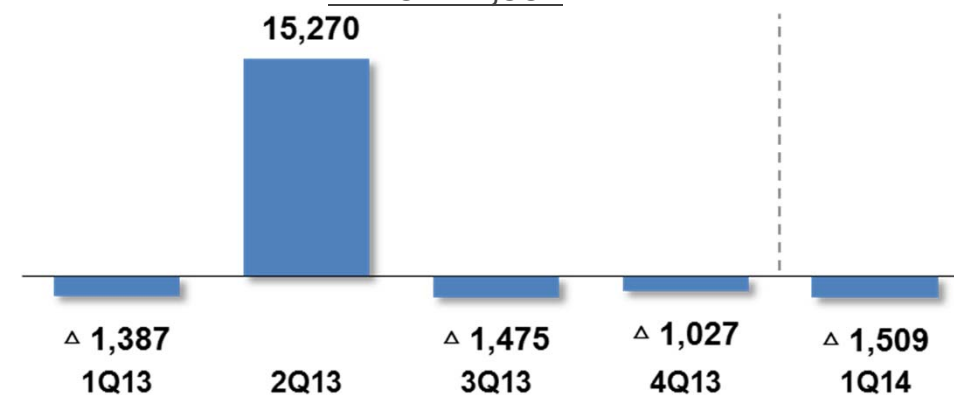
投資キャッシュ・フロー

FY13 : $\Delta 10,203$



財務キャッシュ・フロー

FY13 : 11,382



営業キャッシュ・フロー

	1Q14主内訳	前年同期比
四半期純利益	509	$\Delta 450$
減価償却等	2,312	+241
その他の非資金損益	146	+22
営業資産・負債の増減	$\Delta 112$	1,514

投資キャッシュ・フロー

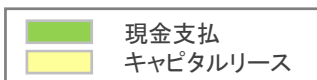
	1Q14主内訳	前年同期比
有形固定資産の取得	$\Delta 1,936$	$\Delta 217$
敷金保証金の支払	$\Delta 1,537$	$\Delta 876$

財務キャッシュ・フロー

	1Q14主内訳	前年同期比
キャピタル・リース債務返済	$\Delta 1,004$	$\Delta 23$
配当金の支払	$\Delta 505$	$\Delta 100$

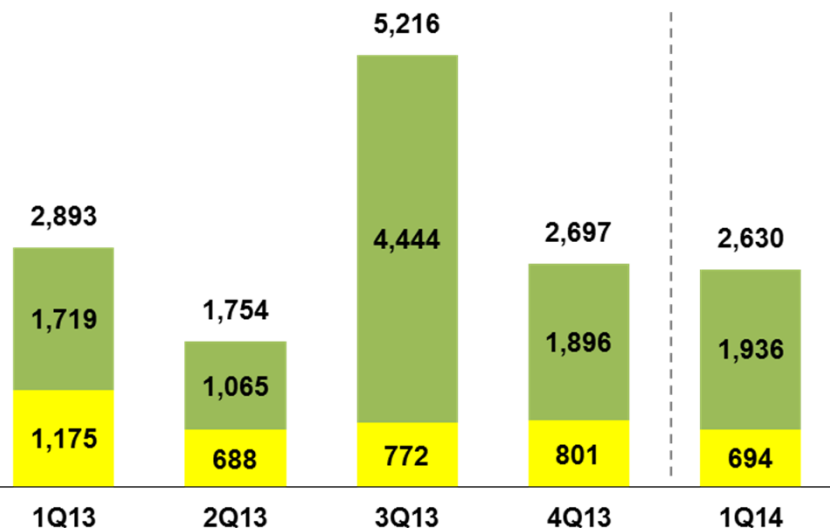
Ⅱ-11. CAPEX・減価償却・Adjusted EBITDA の状況

CAPEX(キャピタルリースを含む)



単位: 百万円

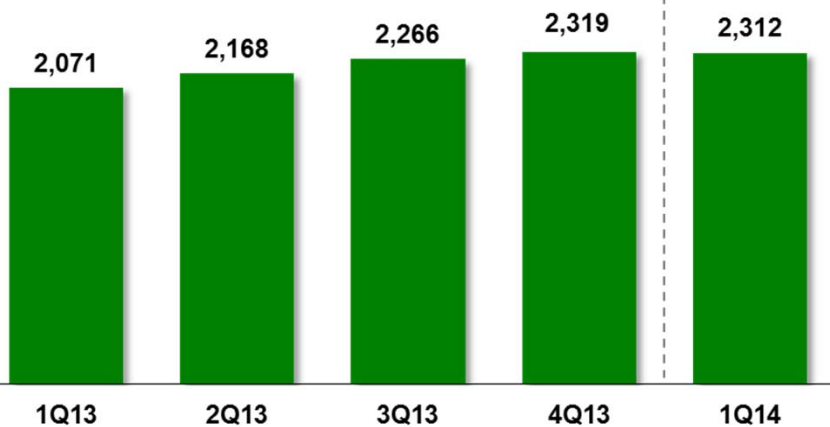
FY13 : 12,560



本社移転にて3Q13 4.2億円に続き
1Q14で1.8億円のCAPEX計上

減価償却費等

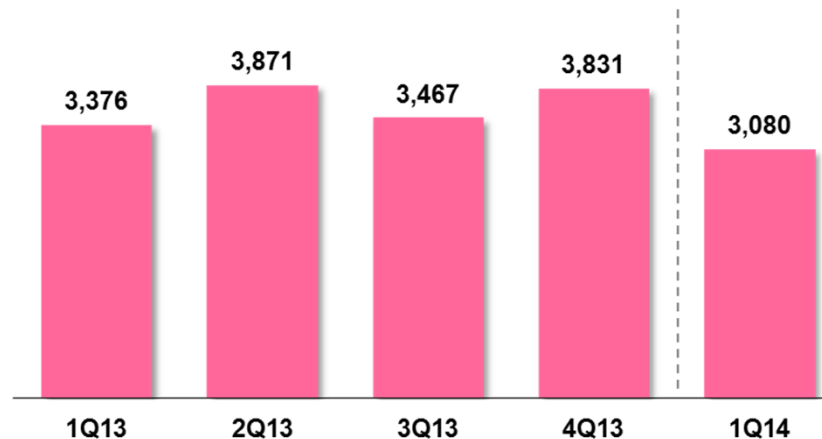
FY13 : 8,823



Adjusted EBITDA (償却前営業利益)

FY13 : 14,546

(利益率 12.7%)



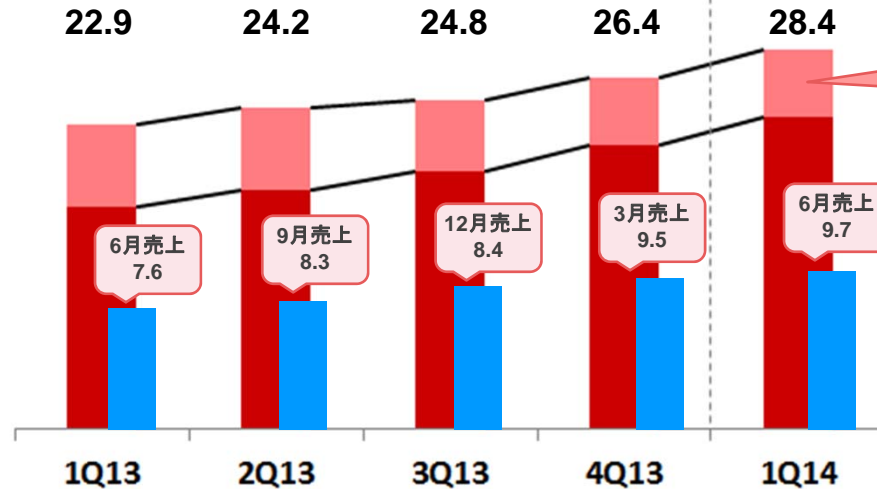
Ⅲ-1. クラウド事業の進展

IIJ GIO

■クラウド関連売上

(単位: 億円)

- 大口SNSゲーム顧客
- 一般事業法人顧客



※1Q14クラウド売上計上: 80%はSI運用、20%はアウトソーシング

汎用アプリSaaS(サイボウズ他)

0.8億円

特定業務SaaS (FX及びPOS)

2.6億円

GIOホスティング

5.8億円

GIOコンポーネント

19.2億円

1Q14売上
28.4億円

ビッグデータ・M2M関連サービスラインアップ強化

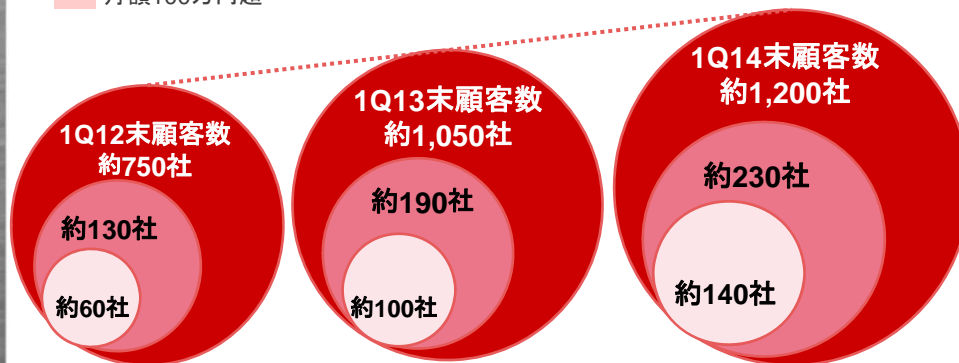
- ▶ 大量データの高速分析処理を可能にするDWH⁽¹⁾の提供⁽²⁾
- ▶ センサーデータの収集、データ可視化に対応するプラットフォームのクラウド提供⁽³⁾

エンタープライズシステムのクラウド化推進

- ▶ Azure閉域網接続サービスにてマイクロソフトと提携
 - WANやセキュリティサービスへの展開も期待
 - 新しい顧客基盤/マルチクラウド連携機能拡充の一環
- ▶ SAPジャパンとのパートナーシップ構築にて、コンサル企業や中堅SIerへのリーチ拡大中
- ▶ SAP HANAクラウド⁽⁴⁾とVWシリーズのハイブリッド構成にてERPシステムのクラウド移行を促進

■顧客基盤 継続拡大

- 月額50万円超
- 月額100万円超



(1) Data Warehouse の略
 (2) IIJ GIO コンポーネントサービス データベースアドオン
 (3) IIJ GIO M2M プラットフォームサービス
 (4) IIJ GIO for SAP ソリューション PoC (Proof of Concept) for SAP HANA

Ⅲ-2. MVNO事業の進捗

個人向けMVNO施策

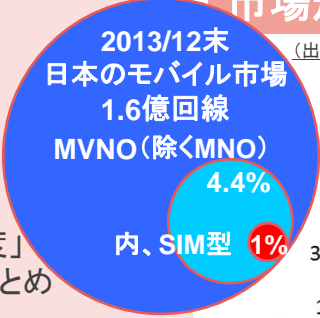
- 迅速なサービスリリースでリーディングポジション確立
 - 音声対応(3月)、MNP対応(4月)にて獲得回線数加速
(音声対応により1Q獲得契約回線数が積み増し。音声回線の約50%がMNP対応分)



- 取扱い店舗順次拡大
 - ビックカメラ有楽町店BICSIM専用受付カウンターを皮切りに受付カウンター順次展開。関西・中部地域も設置へ



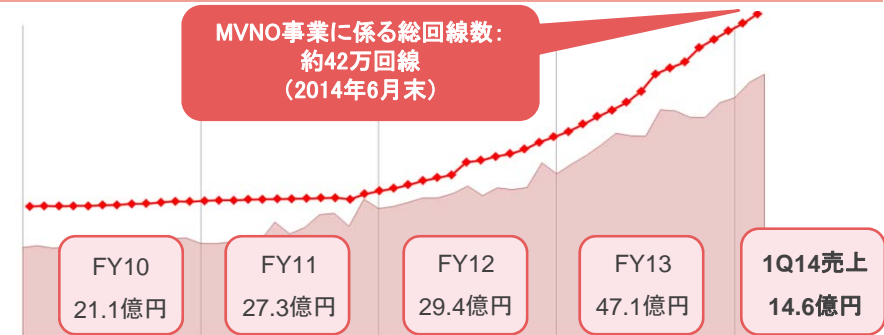
- 取扱いSIMロックフリー端末、拡充
 - ファーウェイ・ジャパン「Ascend G6」(5月～)
 - LG G2mini LG-D620J(8月～)
- 業界動向
 - 総務省、「SIMロック解除」・「クーリングオフ制度」に向けた方針を有識者による研究会にてとりまとめ
 - 青少年保護・消費者保護など、議論活発化



法人向けMVNO施策

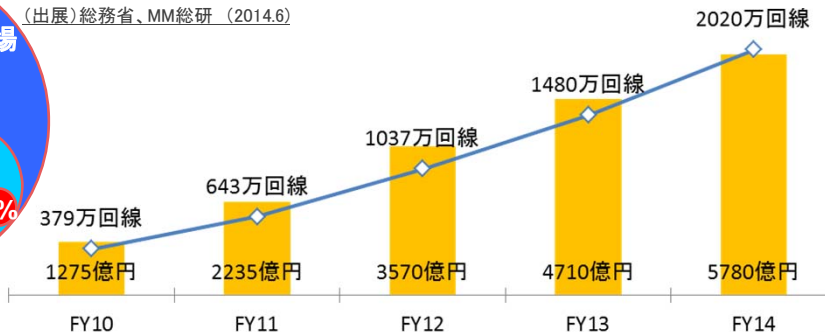
- M2Mソリューションの継続展開
 - 従前よりM2M案件を順次獲得・運用
・タクシー無線配車、自動販売機、農業生産管理など
 - 「IIJ GIO M2Mプラットフォームサービス」、「ヘルスケアソリューション」、「M2M帯域課金モデル(国内初)」など、順次サービス拡充
- MVNE事業への引き合い増加
 - 大口MVNE案件複数進行中

IIJ MVNO事業 売上・回線数推移



市場規模

(出展)総務省、MM総研 (2014.6)



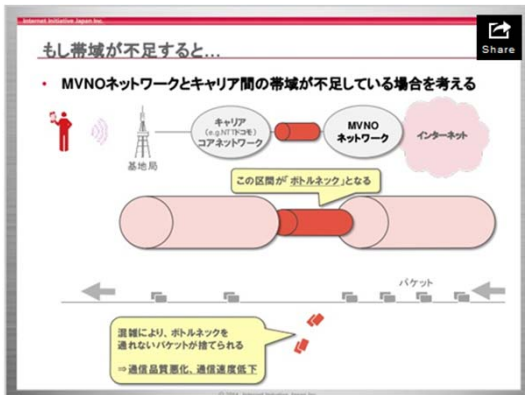
(参考)『てくろぐ』のご紹介

<http://techlog.ijj.ad.jp/>

IIJやインターネットに関する事柄を技術的な側面から取り上げることを目指すIIJ公式技術blog、「てくろぐ」をIIJエンジニアが執筆しています。最近のホット・トピックはもちろん「IIJmio/LTEサービス」です。

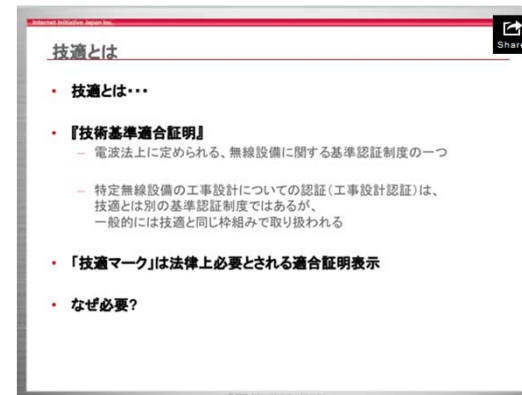
IIJmioユーザとIIJmioのサービス開発・運用・サポートを行っているIIJエンジニアが直接会ってざっくばらんに話すイベント「IIJmio meeting」では以下のような話題が取上げられています。

「品質へのこだわり」



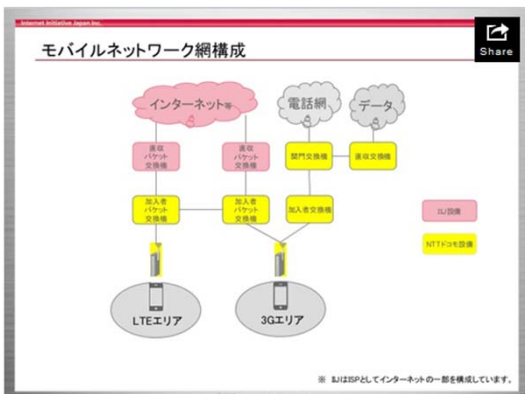
IIJmioの通信速度のボトルネックについて。また「200Kbps」という通信速度についての考え方

「技術基準適合認定」



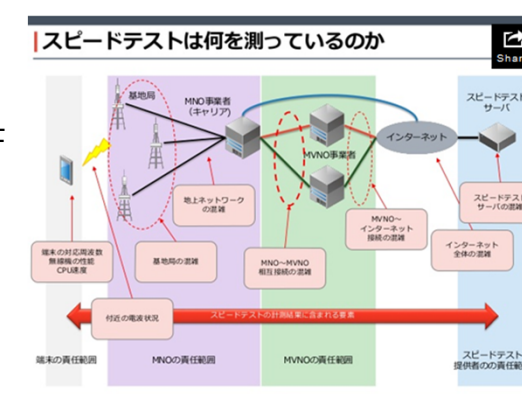
SIMフリー端末を使う上で切っても切り離せない「技適」は何故必要なのか。技適とバンド(周波数)の関係はどうなっているのか。

「音声通話サービス」



音声通話対応SIM「みおふおん」はどのようにして実現されているのか。LINE電話や楽天でんわなど、他の音声通話サービスとの仕組み比較。電話番号の役割について。

「スピードテスト」



スピードテストはいったい何を測っているのか、表示される数値をどのように解釈すれば良いのか、数値の比較に意味はあるのかについて考えます。また、IIJmioの「200Kbps+バースト」では、アプリが行う通信がどのようなものかを観察します。

※ 事業等のリスク

本資料には、1995年米国民事訴訟改革法(Private Securities Litigation Reform Act of 1995)の「セーフハーバー」規定に定義する「将来性の見通しに関する記述(forward looking statements)」に該当する情報が記載されています。本資料の記載のうち、過去または現在の事実に関するもの以外は、将来の見通しに関する記述に該当します。将来の見通しに関する記述は、現在入手可能な情報に基づく当社グループまたは当社の経営陣の仮定及び判断に基づくものであり、既知または未知のリスク及び不確実性が内在しています。また、今後の当社グループまたは当社の事業を取り巻く経営環境の変化、市場の動向、その他様々な要因により、これらの記述または仮定は、将来実現しない可能性があります。現時点において想定しうる当社グループの主なリスク及び不確実性として、

- 1) 国内景気の低迷、経済情勢の変化等による企業のシステム投資及び支出意欲の低下、
- 2) サービスの利用が想定よりも進展しないまたは縮小することによる設備投資規模に対する収益性の悪化、
- 3) サービスの中断等による当社グループのサービスへの信頼性の低下及び事業機会の逸失、
- 4) ネットワーク関連費用、外注費、人件費等、費用規模の想定を超える増加、
- 5) リソース不足に起因する事業規模拡大の機会の逸失、
- 6) 競合他社との競争及び価格競争の進展、
- 7) 投資有価証券、営業権等ののれん資産の価値変動及び実現

等がありますが、これら及びその他のリスク及び不確実性については、当社グループまたは当社が、1934年米国証券取引法(Securities Exchange Act of 1934)に基づき米国証券取引委員会に届出し開示している英文年次報告書(Form 20-F)及びその他の書類をご参照下さい。

※ お問い合わせ先

株式会社インターネットイニシアティブ (経営企画部)

〒102-0071 東京都千代田区富士見2-10-2 飯田橋グラン・ブルーム

TEL: 03-5205-6500 URL: <http://www.iij.ad.jp/ir> E-Mail: ir@iij.ad.jp

